

2 研究の実際

研究の実際

カ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級(2年)の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校2年生の生徒に対して、特別支援学級担任が主に特別支援学級における学習活動で教育内容や方法を変更・調整したり、対象生徒の心理面に配慮したりした事例である。

対象生徒は、ほぼ特別支援学級で学習をしている。体調等によって情緒が不安定になり、落ち着いて学校生活を送ることが難しくなることがある。また、書くことに苦手さを抱えているが、高校進学を希望しており、集団での学習を増やす必要性を感じている。

そこで、心理的な安定を図りながら、集団参加を促すために、必要に応じて休憩を取り入れたり、書く量を軽減したりする等の配慮をした。

P(決定)シート

意思の表明

本人	・学校生活でのストレスを減らし、安心して学習や行事に参加したい。 ・高校への進学を考え、集団で学習する機会や時間を少しずつ増やしたい。
保護者	・高校進学のことを考え、ノートを書き写す経験など、書くことの苦手さを軽減してほしい。 ・集団参加の仕方等については、対象生徒と話し合いながら決めてほしい。 ・ウォーキングなどで体力をつけてほしい。
引継ぎ等	・1年生のときに、交流学級の友達とのトラブルを経験しているため、交流学級で授業を受けるときは、参加の仕方や学習内容等の配慮が必要である。 ・疲れやすいため、対象生徒の気持ちを尊重しながら、学校生活の過ごし方を変更・調整していた。

調 整

実態把握

学習面	・教科学習は、特別支援学級で学年相応の学習内容に取り組んでおり、内容を理解することができている。 ・学習用の椅子に姿勢を正して座ることに負担を感じている。 ・字形が整わず、書くことが苦手である。 ・集団活動に参加することが苦手で、イライラすることがある。 ・交流学級での学習には、ほとんど参加をしていない。テスト等も特別支援学級で受けている。しかし、進路学習を通して、交流学級(集団)の中で授業やテストを受ける必要があると感じている。 ・学習や行事等において、参加の仕方や取り組む活動内容等について特別支援学級担任と一緒に考え、決めたことはやり遂げようとする。
生活面	・感覚の過敏さがある。給食のにおいが苦手であり、弁当を持参している。 ・睡眠時間が短いときには体調が悪く、学習に集中できない。

	・疲労を感じているときは、語気が荒くなったり周囲の人の行動等に過剰に反応したりする。
人との 関わり	・特別支援学級の担任には、要求等を伝えることができる。
その他 (生育歴・ 検査等)	・自閉スペクトラム症の診断を受けている。 ・WISC-Ⅲでは、平均の域にある。

検 討

【時 期】 4 月 始業式前の個人面談

【参加者】 (対象生徒)、保護者、支援学級担任、特別支援教育コーディネーター

※対象生徒は一部参加

【内 容】 高校進学を対象生徒、保護者共に希望している。そのために、集団に入る機会や時間を少しずつ増やしたり、書くことに対する苦手さを軽減したりしたいという願いがある。一方、体調等によって情緒が不安定になり、落ち着いて学校生活を送ることが難しくなることがある。そのため、心理的な安定を図りながら、集団参加を進めるための支援を以下のように検討した。

①対象生徒の意思を尊重しながら、集団参加を進める。

②休憩を適宜入れて、体調を整えるようにする。

③書く活動に配慮する。

④学習活動への見通しをもたせたり、視覚的な情報を用いて説明したりする。

【準備した資料】

・個別の教育支援計画及び個別の指導計画

合意形成

【時 期】 4 月 授業参観後

【参加者】 対象生徒、保護者、特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーター

【内 容】 上記の合理的配慮を提供し、夏季休業に見直しをする。

また、各行事に取り組む前に、対象生徒や保護者と参加の仕方について話し合うようにする。

決 定

長期目標

- ・学習や行事等への取り組み方や参加の仕方について担任と話し合い、対象生徒が主体的に決定できるようにする。
- ・必要に応じて休憩を取りながら、学習や行事等に落ち着いて参加する。

①教育内容・教育方法 ・月、週、日ごとの予定表等を提示する。 ・行事の意義等についての説明と取り組み方について決定する時間を設定する。 ・休憩時間を確保する。 ・書く量を軽減する。 ・書く内容(板書)を明確にする。 ・授業の進め方を統一する。 ・視覚的情報を使って説明する。 ・交流学級の座席やグループを配慮する。	②支援体制 ・障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。 ・交流学級の生徒へ対象生徒の理解を啓発する。	③施設・設備 ・休憩場所を確保する。
--	--	--

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

* <合理的配慮：3観点11項目> * 該当する項目に○を付けて下さい。	
<u>①－1 教育内容</u> (○) 学習上又は生活上の困難を改善・克服 (○) 学習内容の変更・調整 <u>①－2 教育方法</u> (○) 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 () 学習機会や体験の確保 (○) 心理面・健康面の配慮	<u>② 支援体制</u> (○) 専門性のある指導体制の整備 (○) 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発 () 災害時等の支援体制の整備 <u>③ 施設・設備</u> () 校内環境のバリアフリー化 (○) 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備 () 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日 (8 月下旬)

D(提供)-1シート**長期目標**

- ・学習や行事等への取り組み方や参加の仕方について担任と話し合い、対象生徒が主体的に決定できるようにする。
- ・必要に応じて休憩をとりながら、学習や行事等に落ち着いて参加する。

決定した合理的配慮

- ・月、週、日ごとの予定表等を提示する。
- ・行事の意義等についての説明と取り組み方について決定する時間を設定する。
- ・休憩時間を確保する。
- ・書く量を軽減する。
- ・書く内容(板書)を明確にする。
- ・授業の進め方を統一する。
- ・視覚的情報を使って説明する。
- ・交流学級での席やグループを配慮する。
- ・障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。
- ・交流学級や学年生徒へ対象生徒の理解を啓発する。
- ・休憩場所を確保する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について**①教育内容・方法**

場面	対象生徒の目標	手立て
学習面	・決められた学習内容に最後まで取り組む。	・授業では、活動の流れを明確にし、学習の最後には休憩時間を設定する(教科ごとに授業の進め方の大枠を決めて授業を行う)。 ・苦手の教科は、必要に応じて板書の写真を撮り対象生徒に渡す。 ・板書する量を減らし、書き写す場所に印を付けて伝える。 ・書く課題は、対象生徒と担任、教科担当で取り組む量を検討して決定する。 ・授業の進め方を統一する。 ・視覚的情報を使って説明する。 ・作文を書く際には、修正がしやすいように学習用PCを活用する。

生活面 (休憩)	・適切な休み時間 (10分休み、昼休み)の過ごし方を知る。	・休み時間にすることを文字で提示しておく。 ・休み時間に「すべきこと」「したほうがよいこと」「してよいこと」の具体例を提示し、授業が始まるまでに必要な道具を準備しておく。
	・必要に応じて、休憩をとることができる。	・休憩についてルールを決めたり、休憩を求める伝え方を練習したりする。
行事等	・対象生徒と参加の仕方を話し合い、準備や練習に取り組む。	・行事の意義や練習の予定を文字や写真等を用いて説明する。 ・交流学級の生徒と一緒に活動する際は、安心して関わることができる友達を含んだグループを構成する。 ・グループの友達に対する気持ちの伝え方を事前に学習する。

②支援体制

項目	時期	内 容
職員研修	4月	・特別支援学級の生徒についてまとめた資料を基に、対象生徒の特性や支援方法などについて、職員で共通理解をする。
学年部会	5月	・修学旅行や体育大会に向けて対象生徒と決定した参加の仕方を、学年職員に伝え、共通理解をする。
理解啓発	随時	・対象生徒が努力していることを、日頃から交流学級や学年の生徒に伝える。

③施設設備

項目	時期	内 容
休憩場所	4月	・教室の隅に椅子や机などを置き、休憩場所を設置する。

D(提供)-2 シート

合理的配慮の実践

1 合理的配慮の提供場面

家庭科「食品の選択と保存」

2 本時の目標

○加工食品の特徴を理解できる。

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本時では、日常生活の中でよく利用される加工食品の特徴や保存の原理について学習するとともに、食生活に関する一般的な知識を広げることもねらいとしている。そのため、学習においては、料理名などに関連付けたり写真や実物を見たりしながら、加工食品の特徴についての理解を深めることができるようにしていく。

対象生徒は、興味や関心によって知識の偏りがみられる。疲れが少なく体調の良いときは、学習に対して意欲的に取り組むことができるが、イライラするなど情緒が不安定になると落ち着いて取り組むことが難しい。字形が整わないなど、書くことに苦手さを感じているが、書くことに取り組む姿勢は見られる。また、相手に自分から要求等を行うことが苦手で、休憩したいと思っていてもなかなか言えないことが多く、あらかじめ休憩時間を設定したり、休憩が必要か声を掛けたりするようにしている。

指導に当たっては、対象生徒の体調に配慮しながら、落ち着いて学習に取り組めるようにしたい。そのため、学習活動への見通しがもてるように、毎回の授業の進め方を統一したり、授業の冒頭で活動内容を黒板に提示したりする。また、書くことに苦手さがあるため、書く量の調整を行うとともに、記入する箇所を明確に伝えるようにする。さらに、体調に応じて休憩をとることができるように、休憩時間を取り入れることにも配慮する。

4 対象生徒へ提供する主な合理的配慮

提供する合理的配慮
・見通しがもてるように、学習の進め方を黒板に示す。 ・記入する場所を明確にしたり書く量を減らしたりする。 ・休憩を申し出やすいように、授業の冒頭と中盤に体調等について言葉を掛ける。

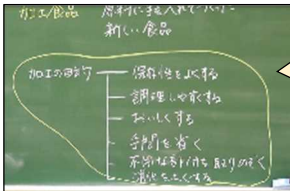
5 授業の実際

(◎合理的配慮)

担任

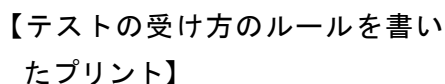
対象生徒

学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
【授業前】	・これまでの学習を想起するために、前時の学習を教科書で振り返らせた。	授業の進め方が統一されているので、自分から教科書を開いて、読み始めていました。
1 学習の見通しをもつ。	◎学習活動の流れを箇条書きにして黒板に記入し、生徒と共に確認した。	学習活動の流れがあった方が良いな。

	◎授業中でも休憩することができることを伝えた。	
2 教科書を読む。	・教科書のp. 92～p. 93を読み、読み終わったら担任に声を掛けるように伝えた。	
学習課題 加工食品の特徴と保存の原理について理解する。		
3 説明を聞く。	・内容を整理しやすいように、黒板にまとめながら説明した。 ・具体物や写真を用いながら説明した。	 食品の実物や写真を見せて、対象生徒が知っていることを尋ねたり、食品について説明をしたりしながら学習を進めました。
4 問題集に記入する。	◎記入する場所が分かるように印を付けた。 ・判別しにくい文字があれば、読みやすい文字になるようにアドバイスし、書き直しを提案した。	 (口頭の)説明だけだと、どこを書けばよいのか忘れてしまうので、印を付けてもらうと有り難いな。
5 本時の学習の要点を知る。	・板書を基に学習を振り返らせ、要点を伝えた。	
6 黒板を書き写す。	◎書き写す場所を黄色のチョークで囲んだ。 ・罫線入り付箋紙(B 6 サイズ)を渡した。 ・書き写したら付箋紙を該当する教科書のページに貼るように伝えた。	 黒板にたくさん書いてあるとどこを書き写せばいいか分かりづらいので、枠があると分かりやすいよ。
7 学習を継続するか休憩するか決定する。	・前半の学習でよかった取組を伝え、意欲を喚起した。	
8 休憩する。 (学習に取り組む場合は2～5の学習活動を繰り返す。)	◎リラックスできるように、休憩場所を利用してよいことを伝えた。	 自分では疲れていることを忘れてしまっていることもあるので、休憩の言葉掛けをしてもらうと有り難いな。

場 面	学習面	定期テスト・実力テストへの参加の仕方
-----	-----	--------------------

- ・対象生徒と話し合いながら、集団への参加の仕方を決める。



そこで、集団でのテストの受け方についてのルールや注意事項、困った時の対応の仕方などを紙に書いて説明した。また、毎回テストの数日前には、教科名などが書かれたテストの取り組み表を配布し、テストを受ける教室を話し合って決めるようにした。テスト終了後は、自分のテストの受け方の可否を自己評価して振り返るようにしている。

対象生徒が目標としている交流学級での受験時数を増やすことができている。

- ・対象生徒と話し合いながら、休み時間の過ごし方について決める。
- ・決定した内容を、表にまとめて視覚的に提示する。

【対象生徒と話し合って作成した
休み時間の過ごし方の表】

そこで、休み時間の使い方について、対象生徒と話し合っ
て表にまとめることにした。作成した表は教室に掲示するこ
とで、いつでも確認できるようにした。

対象生徒の意見を交えて作成した表であるため、休み時間の過ごし方に良い変容が見られた。学習道具の片付けや準備を素早く済ませて休憩する姿が見られるようになった。

場 面	行事等	合唱コンクールへの参加の仕方
合理的配慮の内容 ・対象生徒と話し合いながら集団への参加の仕方を進める。 ・音楽科担当や交流学級担任と、支援の在り方について事前に打合せを行い共通理解する。		
 【合唱コンクールの練習風景】		音楽の授業は特別支援学級で学習しているが、合唱コンクールは学校行事であるため、集団の中で活動するきっかけになると考えた。 そこで、交流学級で合唱コンクールへ向けた練習が始まる前に、昨年度の写真を見て、合唱コンクールの様子を想起できるようにした。また、練習計画や当日のプログラムなどを確認しながら、練習や合唱コンクール当日の参加の仕方について対象生徒と話し合った。さらに、特別支援学級で音楽科担当に指導を受け、十分に練習を重ねてから、自信をもって交流学級の練習に参加できるようにした。 その結果、交流学級のクラスメイトから「声がよく出ている」等の言葉を掛けられ、合唱コンクールの全ての日程を交流学級の友達と共に過ごすことができた。

場 面	行事等	スケッチ会への参加の仕方
合理的配慮の内容 ・対象生徒と話し合いながら、集団への参加の仕方を決める。 ・美術科担当と支援の在り方について事前に打合せを行い共通理解をする。		
対象生徒は、好きな虫の絵を描くことはあるが、色を塗ることには抵抗感をもっている。昨年のスケッチ会は欠席したため、今年度が初めての参加となった。 そこで、特別支援学級担任がスケッチ会に参加することの意義を説明し、活動場所や参加の仕方の選択肢を提示しながら、スケッチ会への参加の仕方について検討した。 スケッチ会では、特別支援学級担任がスケッチの手順を説明したり、美術科担当に構図の取り方や描き方のポイントを教えてもらったりした。描く際は、スケッチする場所の写真を撮ってマス目を付け、画用紙にも同様のマス目を付けることで描写がしやすいようにした。 スケッチ会后、日頃は参加することのない交流学級の美術の授業に、自分の描いているスケッチを持って行き、美術科担当から彩色のポイントについて自分からアドバイスを求める姿が見られた。その際、交流学級の友達から褒められたことが意欲となり、最後まで諦めることなく絵を仕上げることができた。		

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】 8 月

【参加者】 校長、教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、特別支援学級担任、その他の特別支援学級担任

【内 容】 特別支援学級の各生徒の学習や生活の様子等について話し合った。その中で、対象生徒の合理的配慮の成果や課題について説明し、参加者と協議した。

成果と課題

- 学習や行事等への取り組み方や参加の仕方について担任と話し合い、対象生徒が主体的に決定できるようにした。その結果、活動に見通しをもち、体調に合わせて参加することができるようになった。
- 特別支援学級内に休憩できる場所を確保したことで、対象生徒は必要に応じて休憩を取ることができるようになった。その結果、情緒が安定し、落ち着いて学習に取り組むことができるようになった。
- 集団参加の機会が増えているため、対象生徒についての理解を周囲の生徒へ求めることが必要である。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。成果と課題を基に、以下の内容に修正した。

- ・特別支援学級において、休憩場所や時間を確保する。
- ・交流学級の生徒や学年全体に対して、対象生徒の理解を求める働き掛けを行う。

合意形成

【時 期】 8 月下旬

【参加者】 特別支援学級担任、保護者

【内 容】 検討した成果と課題や、変更した合理的配慮について提案した。

今後、必要に応じて対象生徒の特性等を交流学級や学年全体に説明する機会を設けることについて保護者に了承を得た。また、その際に伝えてよい内容についても確認をした。

A(引継ぎ)シート

引継ぎ

【時 期】 4 月 職員会議後

【参加者】 (旧・新)特別支援学級担任

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の内容について引継ぎを行う。
始業式前に、保護者と特別支援教育コーディネーター、新特別支援学級担任、交流学級担任で支援会議を開く。

【内 容】 今年度実施してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

- ・ 月、週、日ごとの予定表を提示する。
- ・ 行事の意義等についての説明と取り組みについて決定する時間を設定する。
- ・ 特別支援学級において、休憩場所や時間を確保する。
- ・ 書く量を軽減する。
- ・ 書く内容(板書)を明確にする。
- ・ 授業の進め方を統一する。
- ・ 視覚的情報を使って説明する。
- ・ 交流学級での座席やグループを配慮する。
- ・ 障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。
- ・ 交流学級の生徒や学年全体に対して、対象生徒の理解を求める働き掛けを行う。

成果と課題

成 果

○保護者との面談を基にした合理的配慮の決定

4月に保護者の願いを聞き、その後、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を用いながら支援の方向性について保護者や特別支援教育コーディネーターと一緒に話し合った。決定した合理的配慮を交流学級担任や教科担当と共有することで、対象生徒に対して一貫した支援が提供でき、その結果、対象生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。

○活動への参加の仕方等について、対象生徒が主体的に決定する合理的配慮の提供

行事予定や週予定、一日の活動内容を示したスケジュール等を基に、行事や集会等の意義や内容等について特別支援学級担任が説明し、参加の仕方等について対象生徒が主体的に決定できるようにした。その結果、集団参加できたことが対象生徒の自信となり、いろいろな活動に積極的に取り組む姿が多く見られるようになった。また、不快なことや困ったことがあっても、教師に相談して解決したり乗り越えたりすることができるようになってきた。

課 題

○合理的配慮を提供したことで、対象生徒が集団参加できる機会が増えてきた。しかし、対象生徒は1年時に、交流学級で友達とのトラブルを経験しており、交流学級や学年全体の活動に参加する際は、不安に感じている様子が見られる。今後、更に集団参加を進めるためには、特別支援学級担任が、対象生徒についての話を一緒に活動する交流学級や学年全体の生徒へするなどの具体的な方策を計画的に進めていき、対象生徒への理解を図ることが必要である。

○中学校は教科担任制であるため、決定した合理的配慮に関わりのある交流学級担任や教科担当等と共通理解することが重要である。しかし、合理的配慮の検討や見直しの支援会議では、時間や参加者の調整が難しく、日々の支援内容等の伝達が不十分なときがあった。そのため、校内における支援体制の整備が必要であると考ええる。

平成28年度 個別の教育支援計画

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成28年 4 月〇日

〇〇中学校 〇〇学級(2年〇組)		校長名	〇〇 〇〇	担任名	〇〇 〇〇
ふりがな 氏名 〇〇 〇〇 (男・女)			生年月日：平成 〇年 〇月 〇日		
保護者名 〇〇 〇〇		家族構成	〇 〇 〇 〇		
住所：〒 〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇市 〇〇町 〇〇〇〇			TEL(〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇)		
緊急連絡先(〇〇〇 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇)					
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の 願い	- 精神的にストレスのない学校生活を送りたい。 - いろいろなことを経験するために学校へ行き、行事もできるだけ参加したい。		保護者の 願い	- ストレスの少ない学校生活を送ってほしい。 - 将来の社会参加に向けて、いろいろなことを経験し、社会性を育てたい。	
本人の状況(学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション、他)					
学校	- 教科の学習は、特別支援学級で複数の生徒と学習している。時々、交流学級の総合的な学習の時間や道徳の授業に参加することもある。 1年時は、交流学級の生徒とトラブルがあったため支援学級で過ごすことが増えた。 - 朝は体調が良くない(腹痛や疲労)ことがある。活動への参加の仕方等について教師と一緒に話し合い、納得すれば参加することができる。 - 相手を意識したコミュニケーションが難しいことがある。				
家庭	- 外でがんばってくるため家庭は基本「休む所」と考える。 - 宿題は本人に任せている。自主学習や問題集に取り組むことがある。 - 偏食がある。 - ゲームをしたり動画を見たりして過ごしている。週末は気の合う同級生が数名、遊びに来るようになった。				
地域・関係機関					
支援の目標	<u>学習や行事等への取り組み方や参加の仕方について担任と話し合い、本人が主体的に決定できるようにする。</u>				
主な支援内容				支援者	
学 校	学 級	主体的な生活を送るために、自分にとって望ましい方向性になる視点をもって自己決定しながら学校生活を送れるようにする。<u>(予定の提示、選択肢の提示など)</u>		特別支援学級担任、交流学級担任、教科担当、特別支援教育コーディネーター	
	校 内	安心、安全な環境の中で生き生きと生活ができるように体制を整える。関わることのできる人や行動できる場所を広げる。		教頭、学年職員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭	
家庭	- 翌日に疲れを残さないようにする。 - 睡眠、排泄、食事等の生活リズムを整える。			家族	
地域					
関係機関	〇〇〇〇病院 〇〇先生				
評価及び 引継ぎ事	中学生になって自分に自覚をもって行動することができるようになってきた。友達関係でも相手を気遣った様子が見られるようになってきた。(平成28年3月)				

【合理的配慮シート】

〇〇中学校 2年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長 期 目 標
・ 学習や行事等への取り組み方や参加の仕方について担当と話し合い、対象生徒が主体的に決定できるようにする。 ・ 必要に応じて休憩をとりながら、学習や行事等に落ち着いて参加する。

提供する合理的配慮	評価
・ 月、週、日ごとの予定表等を提示する。	継続
・ 行事の意義等についての説明と取り組み方について決定する時間を設定する。	継続
・ 休憩時間を確保する。 特別支援学級において、休憩場所や時間を確保する。	変更
・ 書く量を軽減する。	継続
・ 書く内容(板書)を明確にする。	継続
・ 授業の進め方を統一する。	継続
・ 視覚的情報を使って説明する。	継続
・ 交流学級での座席やグループを配慮する。	継続
・ 障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。	継続
・ 交流学級や学年生徒へ対象生徒の理解を啓発する。	変更
・ 休憩場所を確保する。	変更

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28年 6月 〇日

児童生徒名 〇〇 〇〇

保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇

学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日 H28年 8月 〇日

平成28年度 個別の指導計画（実態把握シート）

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成28年 4 月〇日

(ふりがな) 氏 名	〇〇 〇〇	性 別	〇	校長名	〇〇 〇〇
		学 級	〇〇学級(2年〇組)	担任名	〇〇 〇〇
生育歴：医療機関等からの情報(診断等)を含む		家 族 構 成			
・自閉スペクトラム症		〇 〇 〇 〇			
諸 検 査 の 結 果					
・WISC-III FIQ〇〇 (VIQ〇〇 PIQ〇〇)					
共通理解を図りたいことや 主な問題点		・姿勢の保持が苦手であるため、集会などではだらしく見えるが、許容してほしい。 ・気温や湿度が高い状態が苦手であり、イライラすることがある。 ・一斉の指示の際、興味の少ないことは聞き漏らしがあるため、大切な内容は個別に確認してほしい。			
	生徒の状況		現在の対応		
各教科等 授業 宿題 他	・1時間目に苦手な教科があると学習に消極的であるがそれ以外の場面では、教師との言葉でのやり取りを楽しみながら学習に取り組んでいる。 ・課題は毎日忘れずに提出している。 ・以前のやり方にこだわることもあるが、予告をしておくことで、変更を受け入れることができる。 ・望ましい姿勢の保持で疲労を感じることが多い。		・<u>疲労していたり、過度に学習に対して意欲をもてなかつたりする時には、本人からの申し出で休憩できるようにしている。</u>		
集団参加 社会性 休み時間 給食時間 集団活動 他	・決められた係活動や掃除は、自分のペースではあるが、取り組んでいる。 ・交流学級で過ごすことに、心理的に抵抗がある。 ・給食は、嗅覚の過敏さがあり、持参した弁当を食べている。 ・休み時間にすることの優先順位を付けることが難しい。		・集団を段階的に経験できるように、支援学級の同級生や先輩など、いろいろな小集団で授業を受けられるようにしている。 ・昼休みは、交流学級の生徒が遊びに来て本人と関わることが出来るように、教室を開放している。 ・<u>交流学級など、集団への参加については、意義や内容等を説明してから、本人と一緒に参加の仕方を十分検討、決定してから行うようにしている。</u>		
対人関係 コミュニケーション	・通常の学級に友達ができ、週末一緒に遊ぶようになってきた。 ・体調が悪い時や疲労を感じている時に、友達にしくくされると、イライラしたり語気が荒くなったりすることがある。 ・自分の興味あることを一方的に話すことが多い。 ・ネットに書き込まれているような言葉を使って話したり書いたりすることがある。相手との関係性等を考慮した話し方のスキルはこれから学んでいく課題である。		・<u>出来事を一緒に振り返り、自分のイライラや疲れ、困っていることに気づき、対応の仕方のバリエーションを広げる学習をする。</u> ・言葉や人間関係などについては、本人の調子のよい時に話題にしたり、授業として取り扱ったりしている。		
興味・ 関心の あること	・ゲームをすること。 ・動画を視聴すること。 ・昆虫等の生物を観察すること。	苦手な こと	・集団の中に長くいること。 ・給食の混ざった臭い。		
本人の 願い	・水田をもちたい。 ・農業に関する仕事にも興味があるが、趣味として植物の観察をして暮らしたい。	保護者の 願い	・社会性を身に付けてほしい。 ・本人らしく生きてほしい。		
支援にあたる者 (支援チーム)	特別支援学級担任、教科担当、交流学級担任、特別支援教育コーディネーター、交流学級副担任、学年職員				